

横浜市立小中一貫校 霧が丘小中学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

| 共通取組 重点取組 | 平成25年度 | | |
|-------------------------------------|--|--|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | 総括 |
| 1 確かな 学力 | ○学習の成果と課題を分析し、学習状況調査結果などを参考に、教科会を中心に学力向上に取り組んでいます。 ○共同授業研究会を通じて、思考力や表現力の育成に向けた授業力の向上、授業形態の工夫などの改善に取り組んでいます。 | ○成果と課題を分析し、子どもの実態にあった学習に取り組むことができました。また、算数・数学における少人数学習・個別授業の実施により、基礎・基本の定着が図られた。 ○「考え、表現する力」を主題に、授業研究を通じて授業改善と学力向上に取り組んだ。 | B |
| 2 豊かな 心 | ○教科等を含む様々な教育活動を通じて、それぞれの発達段階に応じた自尊感情、自己有用感の育成に取り組んでいます。 ○実体験・本物体験・地域体験・情操教育などの機会を活かし、正しい判断力、思いやりの心、公共心や社会貢献の意識の伸長を図っています。 | ○小、中それぞれが、学習や行事を通して、自尊感情や自己有用感の育成に取り組んだが、系統的な取り組みは今後の課題である。 ○小では体験的な活動を多く取り入れ、実際に関わる触れる機会を設け、興味関心を高め、中では、作品や演劇等の表現活動を通じて社会性や協調性の伸長を図った。 | B |
| 3 健やかな 体 | ○生活意識調査結果などを参考に、小では給食を活用した食育の実践、中では保健・安全面の指導の充実に取り組んでいます。 ○新体力テストのデータを参考に、体育を中心に共同授業等に取り組みながら体力向上に努めています。 | ○小学校では、外遊びの推進や縄跳び集会、マラソン週間の取り組みを通じて体力向上に努めた。中学校では、教科指導や部活動指導において、体力作りや健康、生活改善等の指導に取り組んだ。 ○引き続き小中で連携し、体力向上を図る。 | B |
| 4 教育課程 ・ 学習指導 | ○施設併設の利点を活かし、教科等の円滑な接続、特色を明確にした教育課程の展開に取り組んでいます。 ○小の役割、中の役割を大切に9年間を4—3—2でつなぎ、実態に即した指導を展開し、連携部を中心に小学部・中学部の充実を図っています。 | ○教科単位で授業交流や作品交流が行われ、5・6年生の児童は中学校の学習のイメージを持つことができた。 ○連携部を中心に具体的な取り組みを進めることができた。小学部や中学部への取り組みが今後の課題である。 | B |
| 5 児童生徒 指導 | ○児童生徒指導部会を中心に研修や協議・対応等とともにを行うことにより、円滑な指導等が行える態勢を整えます。 ○9年間の視点で指導の在り方を考え、機能的な指導形態と情報伝達に努めます。 ○小中専任を中心に情報の共有など小と中の連携を図りつつ、防止や早期発見に努めています。 | ○小学校では児童支援専任を核とした支援体制、中学校では学年や生徒指導部を中心に支援体制が定着している。 ○専任の連携が図られており、児童生徒指導部会では情報等の共有が図られた。 | B |
| 7 地域連携 | ○学校運営協議会では 1. 保護者や地域住民等の意向を把握し、学校運営・教育活動に反映させています。 2. 地域人材や教育ボランティアの活用を進めています。 ○連合自治会との連携では、多くの教育的な活動の場があり、安全や健全育成に生かされています。 | ○地域の方や学校教育ボランティアとの連携により、様々な体験的学習活動に取り組むことができた。人、こと、ものに関わりながらの学習は大変有意義であった。 ○連合自治会より教育活動への支援や活動の発表の場を作っていたが、児童生徒の活動の励みとなった。 ○より分かりやすい学校ホームページの作成や迅速な更新をすることができなかった。 | B |
| 人材育成 組織運営 | ○小学校、中学校の核となる教職員を中心に、小中一貫校としての学校経営への参画意識の向上を図っています。 ○小中学校としてのメンターチームを編成し、教師力の向上や小学校と中学校の教員のよい交流の場となるようにします。 ○一貫校としての組織が機能的に動くように、小学校・中学校それぞれの校内組織との連動を考えながら見直しを行うとともに、小中合同の指導部会や教科会の充実を図っています。 ○小学校と中学校間の連携を密に行い、コンプライアンス、児童生徒指導、いじめ等の情報共有や危機管理などについて、迅速で的確に対応できるように努めています。 | ○小学校、中学校それぞれに若い職員を中心に、小中一貫校としての学校経営への参画・助言もしっかりと行われた。小学校と中学校のメンターチームとしての交流は今後の取り組み課題である。 ○一貫校開校から4年間行ってきた組織運営の課題点等を検証することができた。また、年間計画についても一貫校として改善すべき点をはっきりとできてきた。具体策を検討し、早期に改善を図る。 | B |
| 小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果 | ○特別支援教育に関する小中合同研修を行い、共通認識を持つことができた。 ○「学習習慣スタンダード」については、共同授業研究会の場などで児童生徒の実態について意見交換が行われた。「生活習慣スタンダード」についても、小中それぞれの指導部会で検討された。義務教育終了時の子どもの姿について共通認識を図り、9年間の指導の視点に立って、改めて成果や課題について検証をする。 | | |
| 学校 関係者 評価結果 | ○保護者向けの評価アンケートについて、わかりにくい項目や「わからない」という回答が減るように、具体的にどのような取り組みや活動が行われたのかという資料も一緒に配布するとよい。 ○経年変化で見ると悪くなっている部分があるので改善を図ってほしい。 ○小中一貫のメリットをもっと発信すべきである。 | | |
| 評価結果に 対する 学校の 見解 | ○一貫校としての現状や児童・生徒の実態を検証し、全教職員で「めざす子ども像」の共通認識を図るとともに、実現に向けた組織運営の改善を図る。 ○保護者アンケートについて、一貫教育に関して小中で共通した質問項目の検討や具体的に実施された活動をまとめたものなどの資料を添付するなど、学校評価アンケートの改善を図る。 ○情報や一貫校のメリットなどについて、迅速にわかりやすく発信するように努める。 | | |

| | |
|----------------------|---|
| 学校経営 中期目標 達成状況 | ○9年間の一貫教育で育てる子どもの姿について、改めて共通認識を図り、そのための手立てについても再検討の必要を感じた。 ○小中間の子どもや職員との交流には前進が感じられた。特に、小学生にとっては、今まで以上に中学校への期待感や安心感が持てるようになった。 |
|----------------------|---|

※当該年度の達成状況 : A・・・十分達成 B・・・概ね達成 C・・・努力必要 D・・・改善必要

| 共通取組 重点取組 | 平成26年度 | | |
|-------------------------------------|--|--|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | 総括 |
| 1 確かな 学力 | ○学習の成果と課題を分析し、学習状況調査結果などを参考に、教科会を中心に学力向上に取り組んでいます。 ○共同授業研究会を通じて、思考力や表現力の育成に向けた授業力の向上、授業形態の工夫などの改善に取り組んでいます。 | ○全国や横浜市学力・学習状況調査の結果をもとに成果と課題を分析し、教科会を中心に学力向上について検討を進めました。 ○児童生徒が不安なく学習参加ができるよう、授業のユニバーサルデザイン化を推進しました。 | A |
| 2 豊かな 心 | ○小中が連携し様々な教育活動を通じて、それぞれの発達段階に応じた自尊感情、自己有用感の育成に取り組んでいます。 ○実体験・本物体験・地域体験・情操教育などの機会を活かし、正しい判断力、思いやりの心、公共心や社会貢献の意識の伸長を図っています。 | ○心の育成を図る根本には自己有用感の育成が不可欠であるとの認識から、行事や学習等に関して自己有用感をどのように育成するかを協議し、実践しました。 ○職場体験、ボランティア体験、情操教育の推進等により、児童生徒の地域や社会貢献への意識を高めました。 | A |
| 3 健やかな 体 | ○生活意識調査結果などを参考に、小では給食を活用した食育の実践や保健指導、中では保健・安全面の指導の充実に取り組んでいます。 ○体育を中心に共同授業等に取り組みながら体力向上に努めています。 | ○体育活動や部活動の活性化を図り、体力向上に取り組むとともに、保健学習等を通じて生活習慣改善を意識させました。 ○体育の授業では多くの種目を体験し、自己の特性の把握とスポーツに取り組む楽しさを実感させました。 | A |
| 4 教育課程 ・ 学習指導 | ○施設併設の利点を活かし、教科等の円滑な接続、特色を明確にした教育課程の展開に取り組んでいます。 ○小の役割、中の役割を大切に9年間を4—3—2でつなぎ、実態に即した指導を展開し、連携部を中心に小学部・中学部の充実を図っています。 | ○小中が一体となり9年間を見通した教育課程の展開に取り組みました。 ○小、中の教員が乗り入れ授業を行い、専門性等を生かした授業実践に努めました。 ○月例の小中教科会開催に加え、必要に応じて担当者会を開き、9年間の効果的な授業展開を確認し、また実践しました。 | A |
| 5 児童生徒 指導 | ○児童生徒指導部会を中心に研修や協議・対応等とともにを行うことにより、円滑な指導等が行える態勢を整えます。 ○9年間の視点で指導の在り方を考え、機能的な指導形態と情報伝達に努めます。 ○小中専任を中心に情報の共有など小と中の連携を図りつつ、防止や早期発見に努めています。 | ○児童生徒指導部会を主軸におきながら、日常的な職員交流の機会を活用し、児童生徒等に関する情報収集、集約に努め、それをもとに迅速な取組を意識し実践しました。その結果、全体として健やかな子供の育成が実現できました。 | A |
| 7 地域連携 | ○学校運営協議会では 1. 保護者や地域住民等の意向を把握し、学校運営・教育活動に反映させています。 2. 地域人材や教育ボランティアの活用を進めています。 ○連合自治会との連携では、多くの教育的な活動の場があり、安全や健全育成に生かされています。 | ○今年度が創立5周年であることをもって、従前以上に地域や保護者等と連携に努めました。その結果、記念式典等諸行事には多くの人からの協力を得て、無事に終わらせることができました。 ○連合自治会に援助いただき、グローバル人材の育成をめざし、年度末には8名の生徒をベトナム、カンボジア研修旅行に派遣することが決定しました。 | A |
| 人材育成 組織運営 | ○小学校、中学校の核となる教職員を中心に、小中一貫校としての学校経営への参画意識の向上を図っています。 ○小中学校のメンターチームを活用し、教師力の向上を図るとともに、教員のよい交流の場となるようにします。 ○一貫校としての組織が機能的に動くように、小学校・中学校それぞれの校内組織との連動を考えながら見直しを行うとともに、小中合同の指導部会や教科会の充実を図っています。 ○小学校と中学校間の連携を密に行い、コンプライアンス、児童生徒指導、いじめ等の情報共有や危機管理などについて、迅速で的確に対応できるように努めています。 | ○小中企画会等の場を活用し、教育課題への改善を図るための議論を繰り返しました。この機会を経て職員モチベーションが高まり、また、学校経営への参画意識が強まりました。 ○共同授業研の開催を通じて、教科や学級指導等について学び合うことができました。 ○今年度は、文部科学省から4回にわたり担当者を招き、小中一貫教育の充実に向けた研修会をもちました。参加した全職員にとって大きな刺激となりました。 | A |
| 小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果 | 本校は小中一貫校 | | |
| 学校 関係者 評価結果 | ○霧が丘小中学校の良さを積極的に発信してほしい。 ○小学校の保護者は他の学校との交流が少ないが、中学生になると部活動等により交流機会が増える。そのために他校と比較して霧が丘の良さが確認できるのではないかと。 ○教職員の頑張りには感謝している。部活動等ではもう少し頑張ってほしいと思うところもある。 | | |
| 評価結果に 対する 学校の 見解 | ○小中一貫校の特性や児童生徒の成果について、学校HP等を活用し周知に努める。 ○児童生徒に関する客観的なデータの収集と蓄積に努め、小中一貫校の特性を活用した教育活動に励む。 ○霧が丘ブランドの確立に向けて、保護者、地域等から忌憚のない意見収集に努める。 | | |

| | |
|----------------------|--|
| 学校経営 中期目標 達成状況 | ○小中一貫教育に関する職員の意識が非常に高まり、児童生徒の健やかな成長をもたらす本校独自の取組が開始された。このことにより、児童生徒の成長が実現できた。 ○学校運営協議会から、より魅力的な学校づくりに向け「霧が丘ブランド」に関する具体的な提案を寄せていただいた。 |
|----------------------|--|

※当該年度の達成状況 : A・・・十分達成 B・・・概ね達成 C・・・努力必要 D・・・改善必要

| 共通取組 重点取組 | 平成27年度 | | |
|-------------------------------------|---|--------|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | 総括 |
| 1 確かな 学力 | ○ユニバーサル化した授業スタイルをもとに授業実践を行います。 ○共同授業研や教科会等を核に児童生徒の学習に関する情報共有に努め、学力向上に反映させます。 | | |
| 2 豊かな 心 | ○異年齢の児童生徒との交流、職場体験、ボランティア体験等の機会を活用し、相手を思いやる心の育成を推進します。 ○児童生徒の自己有用感を高めるため、前年度に引き続き行事や授業での実践を進めます。 | | |
| 3 健やかな 体 | ○体育活動や部活動の活性化を進めます。部活動については6年生からの活動に向けて取り組みます。 ○生涯スポーツの視点から、授業等では可能な限り多くの種目を体験させます。 | | |
| 4 教育課程 ・ 学習指導 | ○文部科学省に教育課程特例校として指定された事実をもとに、9年間を見通した柔軟な教育課程編成や、新たな学習指導法の開発等を行います。 ○共同授業研への職員の参加体制を工夫し、小、中それぞれの強みを生かした学習指導のあり方について研究を進めます。 | | |
| 5 児童生徒 指導 | ○児童生徒指導部会のみならず小中の部活動顧問会などの機会をとらえ、児童生徒情報の交流に努めます。 ○収集、集約した情報を生かすため、児童生徒指導の一層の充実が図れる体制作りを推進します。 ○9年間の個々の児童生徒の情報蓄積を行い、それを活用します。 | | |
| 7 地域連携 | ○地域は学校にとって極めて重要なパートナーであるとの意識をもち、協働する機会を増やせるよう働きかけを行います。 ○現在の良好な関係性を維持し、また発展できるよう連携の強化を図ります。 ○地域人材の活用が本校の教育には欠くことができないことから、人材発掘等に努めます。 | | |
| 人材育成 組織運営 | ○引き続き小中企画会等の場を活用し、教育課題への改善を図るための議論を行い職員意識向上をめざします。 ○共同授業研が人材育成の重要な機会であることを意識し、テーマの設定等を工夫し、一層充実した研修が実践できるよう取り組みます。 ○場合によっては、昨年度と同様に外部からも講師を招き研修の充実をめざします。 ○これまで小、中学校の校務分掌には少しずつの相違があり、そのことで取り組みの遅滞を引きおこすことがあったため、分掌の見直しと整理、新設を進め、より円滑な実践を行えるようにします。 | | |
| 小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果 | | | |
| 学校 関係者 評価結果 | | | |
| 評価結果に 対する 学校の 見解 | | | |

| | |
|----------------------|--|
| 学校経営 中期目標 達成状況 | |
|----------------------|--|

※当該年度の達成状況 : A・・・十分達成 B・・・概ね達成 C・・・努力必要 D・・・改善必要